

## 「豊かに朗々と響く『ホルトン』のサウンド、それが精華女子高校の音の大切な要素のひとつ」 藤重佳久さん（精華女子高等学校吹奏楽部顧問）

ミッドウエストで衝撃を受けたホルンの響きそれがホルトンとの出会いでした

最近、You Tube等で精華女子高校の演奏が話題になっていますね。特にホルンがすごいと……。

藤重 実はこの3年間続けて、コンクールではホルンが超難関と言われている曲を演奏したんです。C.T.ズミスの三部作なんです。ホルンの常識から懸け離れた高音や低音が出てくる。ズミス自身がホルン奏者なんです。「こんなのとても吹けないだろう」と、ちょっと意地悪



▲「4本でそろったときのホルトンのサウンドは本当に素晴らしいんですよ」と藤重先生

して作った曲とも言われているんです（笑）。  
——高校生がそんな難曲を吹きこなせるなんてすごいですね。  
藤重 アマチュアの特権というか、時間はありますから（笑）。どんなに難曲でもずっとそればかりを練習できる。そこがいろいろな曲を吹かなければいけないプロとの違いですね。ただ、どんなに努力しても非常に大変であることは間違いありません。それでなくてもホルンは音が外れやすく難しい楽器なので、そこは楽器に助けてもらわなければ絶対に無理です。  
——たしか、ホルンはホルトンで揃えていらっしゃるんですよね。

藤重 そうです。精華のホルンの評判がいいのはホルトンのホルンのおかげです（笑）。普通はあんな難曲、危険すぎて手は出さない。ホルンは、音のツボが非常にしっかりしているから安定した音が出せるし、音質も高い音から低い音まで変わらない。ホルン4人のユニゾンもあるんですが、もちろん簡単ではない。そのうえ全体の中でもホルンが非常に

パワフルで深みのある音を出すためにはホルトンしかない、ホルンはすべてホルトンに切り替えたいんです。特にホルンが4本そろったときのトゥッティのサウンドは素晴らしいですよ！まさにあの、ホルンの音色です。また、精華ではトランペットとトロンボーンはバックでそろえているんですが、これもまた独特の華やかな音色が魅力です。ホルンがこの音色に負けてはいけません。それがホルトンなら可能なんです。というより、ホルトンじゃないとダメですね。

——生徒さんの反応は？  
藤重 非常に具合はいいみたいです。手が小さな女の子にもうまくフィットするようですよ。同じ重量でも支えるポイントが違うと身体への負担がかなり違ってきますが、そのあたりのバランスも非常に理想的な楽器だと思います。マーチングもやっているんですが、広い会場を長時間

間歩きながら吹いても疲れないと生徒たちが言っていました。  
——吹き心地は？  
藤重 うんと楽とは言えない（笑）。最初からパツと軽く音が出る楽器もあるのですが、ホルトンはしっかりと息を入れて、しっかりと吹き込んでくると、だんだん音が良くなってくる楽器です。生徒たちも十分に息を吹き込んで、どんどん慣れて、あつという間に自由に吹きこなしています。余談ですが、クラリネットも今はセルマー・パリのブリヴィレツジを使っているんですが、これもフツと吹けばパツと簡単に鳴るといふ楽器ではない。でも、しっかりと息を吹き込めば、他では望めない素晴らしい音を生み出してくるので、すっかり惚れ込んでしまいました。いい楽器というの、ちゃんと応えてくれるのです。

——なるほど。ホルトンの中で、特に好きなモデルはありますか？  
藤重 それはもちろんファーカーカス・モデルです。精華では、先ほども言ったようにトランペットとトロンボーンはバック、それもイエローラッカーを使っています。で、ホルンはあえて、同じイエローではなく、ニッケルシルバーを使っています。対称的な音質の違いがバンド全体のサウンドを変化させ、深みを増すのだと思っています。

——価格も手頃ですよな。  
藤重 それもホルトンを使う大きな理由です。これだけ完成された楽器が30万円台から手に入る。主流が40万円台、50万円台ですから、学校バンドとしてはたいへんありがたい。それと、ホルトンのいいところは非常に堅牢であること。もちろん楽器は個人持ちでやれるのが理想ですが、そもももいかな。学校の楽器はまあ、いろいろな子が使っていて、それでも耐えられるしっかりとした楽器でなければい

目立つ。だから、裏返せば、ホルンが上手であれば、それだけ音楽的效果を出せるとのこと。楽器に支えられてなんとか成功したのでは、と思っています。ぜひ、You Tubeで確かめてみてください（笑）。ただし、当時は違う楽器を吹いていました。

——先生はもともとホルン奏者だったんですか、ホルトンとの出会いは？  
藤重 大学を出てからすぐオーケストラに入ったのですが、そこをやめて指導者になった頃、もう二十年以上も前のことですが、アメリカのミッドウエストで毎年行われるバンド・クリニックに行ったんです。そこで、シカゴ交響楽団のフィリップ・ファーカーカス氏が講習されたんですが、ご自身が監修されたホルトンのファーカーカス・モデルを吹かれていた。そこでも、いい音だなとは思ったんですが、その後のシカゴ交響楽団の演奏会に行くと、まあ、びつくりしました。何がびつくりって、金管楽器が見事に融和して、パイプオルガンのように美しくブレンドしていた。こんなに美しい音があるのかと……。今は意外にインターナショナルでどの国のサウンドもそうは変わらない。でも、当時のアメリカは、シカゴ交響楽団、ロス・フィル、ニューヨーク・フィル、ボストン交響楽団、いずれも柔らかな深みのあるサウンドが独特で、非常に印象的でした。

——今年ミッドウエストに参加しあのアメリカ空軍バンドとも共演!!  
——ところで、今年、三出制度でコンクールがお休みですね。  
藤重 ええ。そのぶん五月には上海万博の国際音楽祭に出演してきましたし、依頼演奏がすごく多くて……。でも、ちょっと緊張感に欠けるので、僕が初めてファーカーカス先生にお会いしたミッドウエストのバンド・クリニックに参加を申し込んだんです。もちろん審査があるので、受かったんですよ。十二月十八日にミッドウエスト・グラランドファイナルという一番最後の演奏会で一時間やることになりました。

——素晴らしいことですね。  
藤重 はい。歴史に残る大きなイベントですし、責任をひしひしと感じているところですよ。そしてなんともうひとつ、これも吹奏楽の歴史に残るんじゃないかと思うんですが、世界最高と言われるアメリカの空軍バンドとワシントンD.C.でジョイント・コンサートをするんです。本当に信じられない。夢のようですよ！  
——楽しみですね。  
藤重 アメリカで育った音楽が日本の高校生の中で花が咲いて、これだけの演奏ができるんだということを見たいと思います。まあ、高校生しか出せない味を出せたらなと思っています。  
——素晴らしい演奏を期待しています。  
藤重 ありがとうございます。とにかく

一世一代のビッグチャンスだと思って、みんな頑張ってくれればと信じています。

——それで、ホルトンというアメリカの楽器に注目された。  
藤重 実際に吹奏楽で演奏するオリジナル曲って、やっぱりアメリカの音楽なんです。日本ではアレンジものを演奏することがすごく多いけれど、吹奏楽のために書かれた曲を演奏するのはとても大切なことです。最近また素晴らしい作曲家がたくさん出てきたのですが、そういう作曲家たちがみなホルンを大事にしているんですね。そのホルンのイメージが、アメリカ映画の「ベン・ハー」やジョン・ウィリアムズの曲のホルンの音なんです。豊かに朗々と響くホルン。この音色はヨーロッパにはないと思っています。

バックのトランペット、トロンボーンと絶妙に響きあうホルトンのサウンド

——精華でははじめからホルトン？  
藤重 僕はバンドができて1年後に精華に来たんですが、そのときはまだホルトンではなかった。でも、やっぱりあのホルンの勇壮なサウンドを得るため、あるいはホルンがものを言うためには、どうしてもホルトンが必要だと思いました。吹奏楽の場合、トランペットやクラリネットがメロディを担当することが多いのですが、シンフォニックな大掛かりな曲になるとホルンが出てくる。そこで、



▲ホルトンのサウンド同様に明るく響き合う精華女子高ホルン・パートのみなさん

● H105ER 価格：1,344,000円(税込み) フルダブル ベル材質：ブロンズ
● H378ER 価格：425,250円(税込み) ● H478ER 価格：490,350円(税込み) フルダブル ベル材質：イエローブラス
● H379ER 価格：478,800円(税込み) ● H479ER 価格：539,700円(税込み) フルダブル ベル材質：ニッケルシルバー



総発売元 株式会社ノナカ  
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46  
TEL.045-212-0332(代)

総輸入元 野中貿易株式会社  
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46  
TEL.045-211-2022(代)

野中貿易サイト  
<http://www.nonaka.com>

ホルトン専用サイト  
<http://www.nonaka-boeki.com/holton>